

先行き見えぬ騒乱後のタイ

Ⅱ「休戦期間」悲観もⅡ

時事通信社・バンコク支局長
岡部 哲雄

タイのバンコク中心部を占拠し続けたタクシン元首相支持派の反政府デモは5月、軍の強行突入で解散し、首都バンコクは表面上、平静を取り戻した。デモ隊による放火で焼け落ちたショッピングセンターは再建が始まり、市民は何事もなかったかのように生活を続けている。しかし、8月初旬現在、非常事態宣言が出されたままで、一般市民を標的にした爆弾事件も相次いでいる。騒乱の背景にある社会格差が解消された訳ではなく、「次の騒乱までの一時休戦期間」との見方も広がっている。

◆きつかけは資産没収判決

騒乱のきつかけは、今年2月の最高裁判決だった。国外逃亡中のタクシン元首相一族の国内資産約760億バーツ（2月のレートで約2000億円）のうち約460億バーツ（同約1240億円）を職権乱用による不正蓄財と認定し、没収を命じた。判決前から最高裁や首相府近くで爆発事件が相次ぐなど、不穏な空気が流れていた。元首相支持派「反独裁民主統一戦線（UDD）」は3月14日に大規模反政府デモを開催すると発表。約10万人が集まり議会の即時

解散を求め、王宮に近い民主記念塔周辺の道路を封鎖、占拠した。

抗議行動はバンコク中心部へのデモ行進から首相府、首相宅への血液ばらまき、繁華街の占拠へとエスカレートしていった。デモ隊の一部が国会敷地内に乱入したのを機に、政府はバンコクなどに非常事態を宣言、一挙に緊張が高まった。4月10日には大規模衝突に発展し、25人が死亡、800人以上が負傷した。

◆ぶれる幹部、交渉決裂

事態が動いたのは5月3日。アピシット首相は「年内」としていた総



未明のシーロム通りに集結した装甲車（5月19日）

選挙実施を11月14日に前倒しすると発表した。国民和解に向け、格差是正などを盛り込んだ5項目の行程表も明らかにした。UDDは受け入れを表明し、繁華街を機能不全にしたデモは終結に向かうとみられた。

しかし、UDD幹部はすぐにはデ

モを解散せず、「選挙日だけでなく、議会解散の日程を明示しろ」と条件を付けた。さらに、「4月の衝突の責任を取り、治安担当のステープ副首相が警察に出頭しなければ駄目だ」と要求。これを受け、副首相は法務省特別犯罪捜査局（DSI）へ赴き、UDDが受け入れるかが注目された。デモ会場のステージ裏にはテントが設置され、「臨時記者室」となっていた。その横にあるコンテナ車がUDD幹部の会議室で、副首相のDSI訪問への対応をめぐる協議が朝から続けられた。午後2時半ごろ、幹部の1人がコンテナから出てきて、記者らに「これ（DSIへの出頭）でいい。受け入れる」と述べた。本当なら、これでデモは解散となる。デモ隊側は選挙の前倒し、政府側もデモの平和的な収拾という成果

を得られる。しかし、これまでも幹部間で発言がぶれることが多く、慎重に受け止める記者が多かった。

1時間後、「DSIでは駄目だ。警察に容疑者として出頭しなければ」と別の幹部。不安は的中した。その夜、ステージに主要幹部が顔をそろえ、デモ参加者に徹底抗戦を訴えかけた。会場は異様なほどの熱気に包まれ、最前列では何人かの女性が演説を聴きながら涙を流していた。

◇市街戦、軍突入へ

政府は態度を硬化させ、デモ隊の占拠地域を封鎖した。その夜、UDDの最強硬派とされるカティヤ陸軍少将が何者かに狙撃される（後、死亡）。翌日には、投石などで抵抗していたデモ隊に治安部隊が催涙弾などを発砲し、大規模な衝突に発展。それ以降、バンコク中心部は市街戦の

様相となり、連日深夜まで発砲や爆発の音が響いた。デモ隊が燃やす廃タイヤの煙で空が曇ることもあった。

そして5月19日。まだ暗い午前5時前、シーロム通りに装甲車7台と武装兵士100人以上が集結した。装甲車は夜明けとともに、ごう音を上げながらバリケード前に移動。兵士が拡声器で「即刻退去しなさい。間もなく警察と軍隊が突入する」と警告を繰り返した。放水、威嚇発砲、催涙弾と強制排除に向けた手順が踏まれていく。銃を持った兵士が慌ただしく配置に就いた。

バリケードの内側からは、治安部隊の突入を阻止するためにデモ隊が燃やした廃タイヤの黒煙がもうもうと上がる。パンパンという銃声も近くで響いた。催涙ガスが目と鼻を強烈に刺激する。その時、先頭の装甲

車が占拠地域内に突入した。銃声
が激しくなる。続いて、数台の装甲
車がルンピニ公園前のバリケードを
踏みつぶしていった。同公園は2時
間ほどで制圧され、間もなく幹部は
デモ解散を宣言し、警察に投降した。
一方で、放水や略奪も行われ、伊勢
丹が入るデモ会場前の大規模シヨッ
ピングセンターは一部が焼け落ちた。

◇「敗北ではない」

騒乱收拾から1カ月近くたった6
月中旬、UDD最高幹部の1人ジャ
トゥボン氏が単独インタビューに応
じた。同氏は下院議員で不逮捕特権
があり、身柄拘束を逃れていた。

氏はデモについて『「負けた」とい
う見方もあるが、そうではない』と
総括。「民主主義を求めるためには、
血も流さなければならぬ」と述べ
た。総選挙前倒しを提示された段階

で收拾しなかったのは判断ミスでは
ないかとの指摘には「現時点から考
えればそうかもしれないが、あの時
は政府に責任を取らせることが重要
と考えた」と語った。商業、観光業
だけでなく、市民生活にも深刻な影
響を与えた繁華街の占拠については、
「バンコク市民は理解してくれてい
る」と正当性を強調した。

一方、政府側も「勝利」を喜んで
ばかりはいられない。7月末に行わ
れた下院の補選では、身柄拘束中の
UDD幹部が立候補。首相率いる与
党民主党の地盤であるバンコクの選
挙区にもかかわらず、善戦した。タ
イの専門家は「現時点で総選挙があ
れば、民主党は第一党になれず、政
権を取っても現在同様の連立となら
ざるを得ない」と指摘している。

現政権がずるずると総選挙日程を

引き延ばせば、UDDが再度デモを展開する可能性がある。一方で、選挙でタクシン派が政権を取れば、反タクシン派の「民主市民連合（PAD）」が反発するのは必至だ。

また、民主党にとつては「解党訴訟」も、のどに刺さった骨のような存在だ。選挙管理委員会が4月、違法献金問題などを理由に「解党が相当」との結論を出し、憲法裁判所で審理が進んでいる。10月判決との見通しもあるが、解党されれば政権は崩壊し、政情は一気に流動化する。

◇「国民和解」遠い道のり

アピシット首相はUDDとの交渉決裂で11月総選挙は撤回したが、行程表は実施する意向を示している。一連の騒乱で犠牲者が出た原因を究明する独立委員会を設置、格差是正のために固定資産税の導入なども目

指している。ただ、独立委の委員長に元検察トップを起用したので、野党側から「公平な調査が期待できない」と批判が噴出。固定資産税も富裕層を中心に強い反発が予想される。

行政当局も「和解」の雰囲気作りに躍起だ。デモ解散後にはボランティアを募って現場の大掃除を行った。多くの市民が参加し、友人と誘い合わせてきた会社員男性は「自分の街だから、自分たちの手できれいにしたい」と語った。

しかし、こうした大掃除の現場ですら、1人の男子大学生がデモ隊の残していった赤いシャツを取り出してこれ見よがしに柱をふき始めると、周囲から喝采が上がった。デモ行進の際、赤い服を着た従業員が声援を送る店の隣では、「タクシン大嫌い」と書いた紙を張り付けてシャツ

ターを閉じる光景も見られた。ショッピングセンターの焼け跡前で「許せない」と言って絶句した女子学生の冷たい表情も忘れることができない。雰囲気だけでは乗り越えられないほどに、対立の根は深い。

国民の間に対立が生じるたび、仲裁をしてきたプミポン国王も、現在82歳と高齢で、昨年9月からは体調を崩して入院中だ。国王の側近中の側近とされるプレミアム枢密院議長は、タクシン派から「（元首相が失脚した）クーデターの黒幕」と名指しされており、調停役は期待できない。国王の介入やクーデターによって状況をリセットする他力本願の「タイ式民主主義」から脱却し、タイ国民自らの力で対立を克服していく努力が求められている。（おかべてつお）